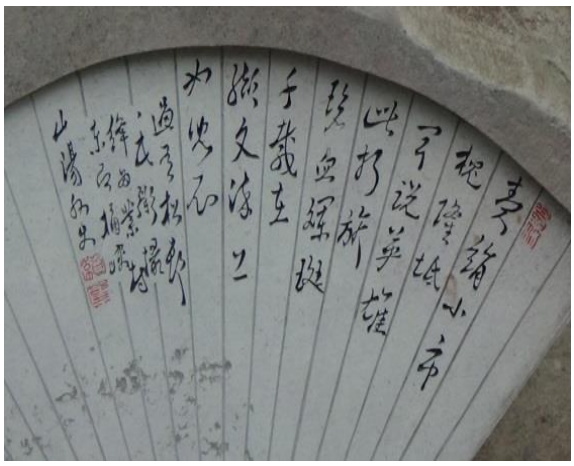
Ｖ．『有松邨ヲ過ル』（頼　山陽、有松・鳴海絞会館前）



売絹小市
枕隆坻　　過有松邨
聞説英雄　　邨民粥撮
此折旆　　縫為業村
碧血爛斑　　東即桶峡
千載在
纈文染上　　山陽　外史
女児衣

---

①作者　頼　山陽（らい さんよう、1780～1832）

　江戸時代後期の歴史家、思想家、漢詩人、文人。幼名は久太郎、名は譲、字は子成。

山陽、三十六峰外史と号した。主著に「日本外史」がある。

---

②　詩の説明

売絹の小市	絹綿の絞を商うこの町
隆低に枕す	両側が起伏した谷間の村で一夜を泊まった
聞説く英雄	織田・今川の合戦史を聞き
此に旆を折す	勝敗決して今川方は破れ
碧血爛斑	決戦の様相古戦場の姿は
千載に在り	永久に書き残されている
纈文染上ぐ	九九利染めの古文書を知り
女児の衣	優雅な衣料を見た

有松邨ヲ過ル	有松の村を通り歩くと
邨民粥デ撮	村人は縫い絞を手業とし
縫村ノ業ト為ス	村の産業となっている
東即チ桶峡	村の東端に桶狭間がある

　山陽　外史印

---

③　歌が詠まれたいきさつ

店内に飾られている扇の写し

　文化１０年（1813年）、頼山陽が京から江戸に向かうとき、蒔絵師である山本春正（井桁屋の親戚筋）から井桁屋に泊まっていきなさいと勧められ、宿泊した時の詩歌である。

　桶狭間合戦の話を家人から聞き、町の風景に心打たれて扇面に書きしるしたもので、その扇はいまだ保存されており、その写しは井桁屋の店内に飾られている。（服部豊氏談）

④　設置のいきさつ

　平成１４年３月６日、有松絞商工協同組合が創立５０周年記念事業として、扇の写しを歌碑に拡大模写し、設置したもの。